

ホタル復活めざす玉川上水

# コイ共存に悩み 幼虫捕食、すみ分けに壁

福生市の玉川上水でホタルとコイの共存をめぐる議論が起きている。雑食性のコイが大きく育ち、ホタルの幼虫や川底に生息する幼虫のエサを食、へてしまうため繁殖できない、という天敵説が発端だ。3日の市議会での問題が取り上げられ、コイを別の場所へ保護する案も討論された。しかし、「都民の水がめで国指定の史跡」という場所だけに制約もあり、簡単に解決しそえない。(上林格)

玉川上水には昭和40年初頭までホタルが繁殖していた。「ホタル復活」を目指す市民団体はここ数年、市ほたる公園の近くの玉川上水に、ホタルの成虫や幼虫のエサのカワニナを放しているが、繁殖には成功していない。



玉川上水 1653年、江戸市中の水不足を解消するため、多摩川からの水を求めて造られたとされる露天掘りの上水路。羽村堰(せき)は羽村市川から四谷大木戸へ新宿区まで43km、高低差92m。1901(明治34)年、直接給水は取りやめになり、水道原水としての供給になる。65年、小平監視所から下流は通水が止められたが、86年に都の「清流復活事業」によって同監視所より下流は下水処理水を流すようになった。

元凶とされるのが放流された大きく育ったコイだ。堰があるJR押鳥駅近くの平和橋付近から上流の青梅橋までの約1.5km区間を回遊していると見られる。

東京大学大学院・保全生態学研究室の須田真一特任研究員によると、ホタルの幼虫は捕食を防ぐ物質を体表に分泌しているが、コイだけは何度

も口から水とともに出し入れた後にもみ込んでしまうという。カワニナも好物だ。「生態系に深刻な影響を与える点でブラックバスやブルーギルに引けをとらない」と話す。

3日の市議会では、杉山行男議員が約30匹の群れをなすコイの写真を議場で掲げながら「コイの保護」と「エサやりの禁止」を訴えた。加藤育男市長は「コイとホタル、どちらかを優先することがどこまでできるのか、市民と相談させてもらいたい」と答えた。玉川上水は国指定の史跡であるため、コイを保護する

ホタルの天敵とされるコイの群れは福生市の玉川上水

けすなどの設置には文化庁の許可が必要。本来飲料水でもあり、えさやりや釣りは水質の観点から「好ましくない」というのが管轄する都水道局の見解だ。橋付近にえさやり禁止の看板設置は検討できるといふ。ただ、元気なコイを人為的に別の場所に「保護」することは事例がないため担当者も戸惑っている。

# 東京川の手

台東 墨田 江東 荒川  
足立 葛飾 江戸川